

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	12	学校名	各務原西高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	<p>1 生徒一人一人を大切にし、その全人的な発達を図る。</p> <p>2 学ぶことを愛し、豊かな情操と健全な心身を養い、自らの可能性を追求して個性を伸ばし、将来における自己実現の能力を培い、国家及び社会の有為な形成者となるとともに、国際社会においても貢献できる人材の育成を目指す。</p>		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学び、自ら考え判断し、適切な行動ができる生徒（「好学時習」） ・ 幅広い視野をもって、主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓く力を身に付けた生徒（「質実剛健」） ・ 調和のとれた豊かな人間性や社会性、多様な人々と協調・協働する力を備えた生徒（「互敬友愛」） 	
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個の進路希望に応じた多様な選択科目と少人数クラス編成による「主体的・対話的な深い学び」の推進 ・ 課題を発見し探究する力や地域社会に貢献できる実践力を育むため、探究的な活動やキャリア教育の実践 ・ 他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう、学校生活全般において様々な経験を重ねることができる機会の提供 	
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ意欲をもち、発展的な学習に進んで取り組もうとする生徒 ・ 学習のみならず、部活動や生徒会活動、ボランティア活動など様々な活動にも積極的に取り組みたい生徒 ・ 高い規範意識をもち、豊かな人間性や社会性を身に付けたい生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前例踏襲の事柄が多く現状に甘んじている傾向が見られる。 ・ 本校が大切にしてきたものや生徒のよさに対して、対外的なアピールができていない。 ・ 期待される学校に対しての職員の認識が高いとは言えない。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	全教職員が一体となって学校課題の解決に取り組み、明るさと活力に満ちた「規律ある進学型単位制高校づくり」を進めます。	
	学習指導	「主体的に活動する授業」「自発的に学ぶ授業」を工夫し、生徒自らが課題を見つけ解決していく力を養います。	
	進路指導	生徒自らが自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路選択できる能力や態度を養います。	
	生徒指導	次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観と規範意識を身に付け、主体的な判断や責任ある行動ができる生徒を育成します。また、安心して安全な学校生活を送れるようにします。	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学校経営	①人間関係の円満な、風通しの良い職場になるよう報告・連絡・相談を徹底します。	28	施策Ⅳ-28
	②新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単位制高校の特色を活かした教育課程を編成します。	20	施策Ⅳ-20
	③教職員の長時間勤務や多忙化解消をすすめるとともに働きやすい職場づくりを推進します。	27	施策Ⅳ-27
	④安心・安全な学校生活が送れるよう、感染症等に適切に対応します。	19	施策Ⅲ-19
学習指導	①自己研修・互見授業等によって、ICT機器等を活用した授業改善を行います。	9	施策Ⅱ-9
	②生徒の自主的な取り組みを促し、家庭学習の確立につなげます。	8	施策Ⅱ-8
	③発展的な学力を身に付けさせるため、補習授業等を一層充実させます。	8	施策Ⅱ-8
進路指導	①計画的・組織的に探究的な学びや進路ガイダンス、面談を行うとともに、授業を一層充実させます。	8	施策Ⅱ-8
	②適切な進路情報を提供し、主体的な進路探究に取り組めるよう指導します。	8	施策Ⅱ-8
	③志望に応じた指導を充実させ、大学入試に対応できる学力を身に付けさせます。	8	施策Ⅱ-8
	④3年間を見通したキャリアプランを作成し実施します。	8	施策Ⅱ-8
生徒指導	①生活委員会（MSリーダーズ）や部活動での挨拶運動とともに身だしなみを整える活動を行います。	1	施策Ⅰ-1
	②安易な遅刻を防止するため遅刻過多の生徒には担任、保護者と連携し生活習慣を見直す指導を行います。	7	施策Ⅰ-7
	③支援が必要な生徒の情報を把握し、必要な場合はケース会議を開催するなど組織的に対応します。	21	施策Ⅳ-21

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
①ある程度報告・連絡・相談ができた。 ②実施する中で修正の必要性が出てきたときには職員で協議し適切な編成をすることができた。 ③働きやすい職場に向けて改善することができた。 ④適切に対応することができた。	B	①さらに迅速な対応を目指す。 ②特色を活かす施策をさらに進める。 ③業務の洗い出しをさらに進め、業務の平準化を進める。 ④油断することなく対応継続する。	B
①活用する割合は増えているものの教科ごとに使用するソフト等が固定されつつある。 ②授業力向上週間において教科の別を問わず互見授業を行い、教科ごとには研究授業と授業研究会を行い、授業力向上に努めた。	B	それぞれの取り組みによる職員間での意識向上ができた。今後は、生徒の実態把握を行いながら検討と改善を行う。	
①各年次、対象者に応じた講演会やガイダンスが実施できた。 ②進路を考える節目で「進路の手引き」「進路たより」の発行ができた。インターンシップに積極的に参加する生徒が多かった。 ③生徒のレベルや目的に応じた補習を実施することができた。	B	計画どおりに実施することができたが、事後に振り返り自分の行動に落とし込む時間が十分にとれなかった。	
①挨拶運動については継続的に行うことができた。 ②5分前登校や呼びかけ指導を継続的に行っているが十分な成果は上がるまでには至っていない。 ③支援が必要な生徒には、その都度ケース会議を開くなどして組織的な対応を行っているが初期段階での情報共有に改善の余地が残った。	C	決められたルールを守ることができない生徒を減らしていく取り組みを継続するとともに基準の統一と職員間の共有を徹底していく。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月15日

将来、進路につながるような「総合的な探究の時間」を充実させるとともに、低学年時から基礎学力を身に付けさせる授業改善に取り組む。
また、安易な遅刻の防止と挨拶の励行の指導の徹底を図る。支援が必要とする生徒については、迅速な対応がとれるよう、日頃から報告・連絡・相談を円滑に行うよう、職場環境を大切にする。
3年次の大学進学等の書類作成に伴う負担増をできるだけ平準化できるような組織体制を構築する。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月30日

学校全体として体系的に充実してきていることや、文教地区としての環境の良い点など学校環境が整ってきている。より一層、利便性をPRしていくとよい。部活動についても3年間続けられるような仕組みがあるとよい。そのような人材は社会人としては重宝される。将来、地元製造業に就職してくれるような人材育成が望まれる。